

評価者	市民生活部長	齋藤 和徳
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	産業振興	施策の方針	商工業振興の充実
目標とすべきまちの姿	中小企業をはじめとする事業者が事業を継続するための支援として、経営アドバイザーの派遣や経営革新への取組に対する助成が行われ、産業が活性化しています。 また、商店街は、高齢者も利用しやすい、地域の特性を生かした商店街となり、活性化しています。 鎌倉彫の保護・育成を目的とした活動の支援や協同組合との連携による伝統工芸品の技術伝承の支援などにより、伝統工芸が传承されています。また、事業者や組合と協働した伝統工芸の販路確保等により、売上が向上しています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成30年度(2018年度)	36.9%	平成29年度(2017年度)	36.6%	平成28年度(2016年度)	31.8%
	平成27年度(2015年度)	29.3%				

(2) 妥当性

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	3.5%	0.3%	0.0%
	ちょうどよい	4.6%	33.4%	0.5%
	効果不十分	6.8%	2.3%	7.1%

平成30年度(2018年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	3.5%	0.0%	0.2%
	ちょうどよい	5.6%	31.5%	0.4%
	効果不十分	6.7%	4.7%	6.5%

平成29年度(2017年度)

施策の方針全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	3.6%	1.2%	0.0%
	ちょうどよい	4.6%	38.9%	0.2%
	効果不十分	5.5%	3.7%	5.5%

平成28年度(2016年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	2.6%	0.7%	0.3%
	ちょうどよい	3.9%	39.1%	0.3%
	効果不十分	6.2%	4.4%	6.2%

平成27年度(2015年度)

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成30年度(2018年度)	11.7%	37.0%	9.6%	41.7%
平成29年度(2017年度)	14.1%	34.4%	10.4%	41.1%
平成28年度(2016年度)	11.9%	42.3%	8.9%	36.9%
平成27年度(2015年度)	12.6%	43.2%	8.0%	36.2%

2 内部評価

(1) 平成30年度(2018年度)の目標

①商店街の健全な運営の阻害要因の一つである商店街が維持管理する街路灯の電気料の負担軽減を図るため、商店街共同施設設置費補助金の補助率を平成29年度から平成31年度までの3年間は1/3から1/2に引き上げ、LED化を推進する。(市民-13)
 ②令和元年度中に市への寄附が予定されている資生堂鎌倉工場跡地の一部を活用する事業者の公募及び審査を行い、産業系の土地活用を継続することで、産業の活性化及び雇用機会の増大を図る。(市民-14)
 ③伝統鎌倉彫事業協同組合が実施する小中学生鎌倉彫体験学習事業に要する経費の一部を助成するとともに、開催に向けた支援を行い、鎌倉彫に触れる機会の創出を図る。(市民-16)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成30年度(2018年度)の目標との関連性

①商店街団体が維持管理する街路灯の電気料の負担軽減を図ることで、商店街団体の活動原資を確保し、地域の特性を生かした商店街作りに寄与する。(市民-13)
 ②資生堂鎌倉工場跡地の一部について産業系の土地活用を継続させることで、産業の活性化に寄与する。(市民-14)
 ③鎌倉彫に触れる機会を創出することで、鎌倉彫の保護・育成に寄与する。(市民-16)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託 事務	今後の 方向性	
整理番号	事業名	平成30年度 (2018年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)		事業 内容	予算 規模
市民-10	商工運営事業	2,826	2,751	4,423	4,823	0.2	0.2	無	b	B
市民-11	中小企業支援事業	505,730	507,115	512,915	514,521	0.9	0.9	無	b	B
市民-12	商工会議所助成事業	14,667	14,667	15,465	15,451	0.1	0.1	無	b	B
市民-13	商店街振興事業	14,588	22,993	22,571	21,839	1.0	1.0	無	b	A
市民-14	商工業振興事業	9,078	8,797	18,658	47,876	1.2	3.2	無	b	B
市民-15	公衆浴場助成事業	534	400	1,332	1,184	0.1	0.1	無	b	B
市民-16	伝統鎌倉彫振興事業	4,435	24,291	6,830	6,962	0.3	0.3	無	b	B

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】

- ①各商店街団体に対し、LED化の効果や市内実績に係る情報提供を行うとともに、LED化を計画している商店街団体を支援し、約76%の街路灯のLED化が完了した。(市民-13)
- ②令和元年度に寄附を受ける予定となっている、資生堂鎌倉工場跡地の一部を活用する事業者を公募し、外部委員による選考審査を行い優先候補者を決定した。(市民-14)
- ③伝統鎌倉彫事業協同組合が実施する小中学生鎌倉彫体験学習事業に要する経費の一部を助成するとともに、開催に向けた支援を行った。(市民-16)

【実施できなかった事業とその理由等】

(5) 平成30年度(2018年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

- ・制度融資については、金融機関に資金を預託することで、事業費・人件費について効率的に実施した。(市民-11)
- ・商店街街路灯のLED化を促進したことで、商店街の固定費軽減につながった。(市民-13)
- ・企業立地の促進に係る固定資産税等の軽減措置により、1件の立地、5件の設備投資、1件の事業所内保育施設設置に結びついた。(市民-14)
- ・オフィス等の開設に係る補助金により、1件の情報通信業のオフィス、2件のシェアードオフィス開設に結びついた。(市民-14)
- ・伝統鎌倉彫事業協同組合が実施した二時間体験教室、小学校卒業制作、子ども向け鎌倉彫Webサイト作成等に要する支援を行い、鎌倉彫に触れる機会の増加を図ったが、鎌倉彫出荷額の増加にはつながっていない。(市民-16)

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

- ・効果とお金の両方が「ちょうどよい」とする割合が33.4%と低く、全体における位置も低くなっていることから、事業の効果を周知していく必要がある。
- ・「働くまち鎌倉」の実現に向けて、中小企業支援事業、商工業振興事業を推進する。
- ・鎌倉彫の保護・育成のため、伝統鎌倉彫振興事業を推進する。

(7) 令和元年度(2019年度)の目標

- ①商店街の健全な運営の阻害要因の一つである商店街が維持管理する街路灯の電気料の負担軽減を図るため、商店街共同施設設置費補助金の補助率を平成29年度から平成31年度までの3年間は1/3から1/2に引き上げ、LED化を推進する。(市民-13)
- ②令和元年度中に市への寄附が予定されている資生堂鎌倉工場跡地の一部について、寄附後円滑に活用されるよう、当該土地を活用する優先候補者とともに地元への説明会を開催するなどし、産業系の土地活用を継続させることで、産業の活性化及び雇用機会の増大を図る。(市民-14)
- ③企業誘致の取組として、立地や設備投資を行う企業に対する市税の軽減や、企業情報通信業のオフィス、シェアードオフィスの設置に対する補助を行う。(市民-14)
- ④伝統鎌倉彫事業協同組合が実施する小中学生鎌倉彫体験学習事業に要する経費の一部を助成するとともに、開催に向けた支援を行い、鎌倉彫に触れる機会の創出を図るとともに、事業者や組合と協働した鎌倉彫の販路確保に向けた取組を検討する(市民-16)

(8) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

①商店街団体が維持管理する街路灯の電気料の負担軽減を図ることで、商店街団体の活動原資を確保し、地域の特性を生かした商店街作りに寄与する。(市民-13)
 ②資生堂鎌倉工場跡地の一部について産業系の土地活用を継続させることで、産業の活性化に寄与する。(市民-14)
 ③企業を誘致し、産業を集積させることで、安定した雇用の創出、産業の活性化に寄与する。(市民-14)
 ④鎌倉彫に触れる機会を創出することで、鎌倉彫の保護・育成に寄与する。また、事業者や組合と協働した鎌倉彫の販路確保等を行い出荷額の増加を図る。(市民-16)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	市民-13	事業名	商店街振興事業						単位	%	指標の傾向	↗	備考	
指標の内容	商店街団体加入率						単位	%	指標の傾向	↗	備考			
当該指標を設定した理由	支援対象が、商店街団体単位であるため。						年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	
	目標値							85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	
	実績値							76.8	79.9	76.6	73.4	84.1		
	達成率							90.4%	94.0%	90.1%	86.4%	98.9%		

整理番号	市民-14	事業名	商工業振興事業						単位	件	指標の傾向	⇒	備考	
指標の内容	企業立地整備費等補助金による助成件数						単位	件	指標の傾向	⇒	備考			
当該指標を設定した理由	企業立地整備費等補助金による支援状況を把握するため。						年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	H28は、企業活動拠点整備事業費補助金に係る助成件数
	目標値							-	-	5.0	5.0	10.0	10.0	
	実績値							-	-	4.0	2.0	3.0		
	達成率							-	-	80.0%	40.0%	30.0%		

整理番号	市民-16	事業名	伝統鎌倉彫振興事業						単位	千円	指標の傾向	⇒	備考	
指標の内容	鎌倉彫出荷額						単位	千円	指標の傾向	⇒	備考			
当該指標を設定した理由	本市で唯一の伝統工芸品産業を維持するため。						年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	
	目標値							630,000	630,000	630,000	630,000	630,000	630,000	
	実績値							600,000	564,000	470,000	420,000	430,000		
	達成率							95.2%	89.5%	74.6%	66.7%	68.3%		

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

・鎌倉市企業活動拠点整備事業の効果測定を行っていく必要がある。新たな補助制度を構築するなどの取組は良いと思われ、さらに進めるべき。

・シェアオフィスやリフォーム費用の補助金創設により、どのような効果が現れたのか。どの程度、産業が活性化に寄与したと言えるのか。結果が知りたい。単純に、一部企業への施設整備の補助に終わらないようにしてほしい。

指摘への対応、コメント等

・鎌倉市企業活動拠点整備事業により、2件のオフィス及び2件のシェアードオフィスが設置されており、新たな雇用の創出に効果があったと捉えています。雇用の創出を継続していくため、情報通信業のオフィスを開設する場合のリフォーム費用や賃料の一部、それ以外の業種でシェアードオフィスを新たに開設する際のリフォーム費用の一部を助成する鎌倉市企業立地整備費等補助制度を構築しています。

・情報通信業のオフィスを開設する際の補助については、市外の事業者が新規にオフィスを開設すること又は市内の事業者が従業員3名以上の増員を伴うオフィスを開設することを要件としており、事業の実施により、雇用の創出に効果があると捉えています。平成30年度は、情報通信業のオフィス開設1件、シェアードオフィス開設2件に対する補助を行いました。



提言

・技能振興とも重なる部分があるが鎌倉彫振興支援は当然のことながら新しい鎌倉ブランドの創造、支援に力を入れてほしい。

・鎌倉彫の出荷額を指標に入れたことは「目標とすべきまちの姿」を目指すにあたり大事なことだと思う。しかし、達成率が年々大幅に下がっている事は評価できない。達成率を改善するための取組も見当たらないことは問題である。

・「目標とすべきまちの姿」にある、「中小企業をはじめとする事業者が事業を継続するための支援として、経営アドバイザーの派遣や経営革新への取組に対する助成が行われ、産業が活性化しています。」について、「経営アドバイザーの派遣数」を指標とすべき。また「助成」により「改革」が行われ、活性化した事例を明記にすべき。

・「目標とすべきまちの姿」にある、「商店街は、高齢者も利用しやすい、地域の特性を生かした商店街となり、活性化しています。」について、「地域の特性」は具体的にどの様なものであり、何をもち「活性化している」と確認できるのかを明確にし、指標とすべき。

・「目標とすべきまちの姿」にある、「鎌倉彫の保護・育成を目的とした活動の支援や協同組合との連携による伝統工芸品の技術伝承の支援などにより、伝統工芸が伝承されています。」について、鎌倉彫は保護しなければ消滅してしまうものなのか？もしそうであれば何が原因かを明確にすべき。

提言に対するコメント等

・商工業元気アップ事業において、地域の資源を活用して創業する事業や新しい商品・技術の開発、サービスの提供を行う事業を支援しています。

・伝統鎌倉彫事業協同組合と企業の仲介を行い、新商品の開発を支援した事例があります。引き続き、鎌倉彫事業者や組合と協働した鎌倉彫の販路確保に向けた取組を検討していきます。

・経営アドバイザーについては、公益財団法人神奈川産業振興センターが実施する経営アドバイザー派遣事業を活用する際の費用を補助しています。事業者の状況によって上下するものであるため、指標としていません。活性化した事例については、制度の周知に活用することを検討していきます。

・市内の商店街は、観光客を主な顧客層とするもの、地域住民を主な顧客層とするものなど、地域によって様々な特性を有しており、市では、それぞれの商店街団体が特性を踏まえて、主体的に実施する事業を支援しています。商店街団体からは、「売上の増加につながった」、「新たな顧客獲得の機会となった」、「顧客とコミュニケーションがとれた」等の報告を受けているが、事業によって効果が多岐にわたることから、指標としていません。

・鎌倉彫産業の従事者数は年々減少しています。事業者からは売上が確保できないことから、後継者を雇用することができないとの話も聞いており、このまま出荷額が低下していくと、鎌倉彫の技術が伝承されなくなる恐れがあります。そのため、事業者や組合と協働した鎌倉彫の販路確保等を実施していきます。



質問

・「指標」の「商店街団体加入率」について、目標はどのように算定しているのか？また商店街ごとの増減傾向はあるのか？

・「指標」の「企業立地整備費等補助金による助成件数」について、「助成件数」＝「新規事業参入数」なのか？

質問に対する回答

平成26年度の商店街団体加入率の一割増を目標としています。増減の傾向については、前年から横ばいの商店街団体が半数を占めています。

企業立地整備費等補助金による助成件数は、情報通信業のオフィス又はシェアードオフィスが立地した件数です。



商工業振興の充実

評価できるところ

- ・製造業や新規成長産業(医療福祉関連、生活文化関連、情報通信関連、新製造技術関連、環境関連など)の企業が事業展開しやすい環境の整備に努める。新しい成長分野に対する意識が芽生えつつあるのはよいと思われる。
- ・商店街が維持管理する街路灯の電気料の負担軽減を図るため、商店街共同施設設置費補助金の補助率を平成29年度から平成31年度までの3年間は1/3から1/2に引き上げ、LED化を推進している。
- ・令和元年度中に市への寄附が予定されている資生堂鎌倉工場跡地の一部について産業系の土地活用を継続させることで、産業の活性化に寄与する。外部委員による選考審査を行い優先候補者を決定した。
- ・オフィス等の開設に係る補助金により、1件の情報通信業のオフィス、2件のシェアードオフィス開設に結びついた。
- ・鎌倉市企業活動拠点整備事業を実施した、鎌倉市企業活動拠点整備事業の効果測定を行い、新たな補助制度を構築するなどの取組は良い。

		評価の内訳			
取組		0	1	7	
効果		0	1	-	7

委員会の評価
-

課題

- ・鎌倉彫出荷額が伸びなやんでいる。自らの経営改革努力などが、どれだけ行われているか、不明である。
- ・鎌倉彫の対応については、もっと発信する方法を取るべきでは、このままだと、どんどん廃れてしまいかねない。
- ・小中学校の鎌倉彫の体験教室は知名度UPとしては有効であるが、鎌倉彫の保護・育成につながっていない。
- ・市内の空き家・空き店舗等を活用した企業活動の拠点整備とあるが、空き家・空き店舗の実態はどのようなものか、具体的な内容が分かりづらい。

提言

- ・地域における就業者や職種のバランスを考えて、産業振興を行う視点が必要である。今後の鎌倉の将来を担う産業を育成する立場をとるべき。
- ・鎌倉市企業活動拠点整備事業を実施した。鎌倉市企業活動拠点整備事業の効果測定を行っていく必要がある。新たな補助制度を構築するなどの取組は良いと思われ、さらに進めるべき。
- ・鎌倉彫の器が、もっと日常使いに市民が使用できるものを制作し、便利であることをPRしていくべき。
- ・「企業立地整備費等補助金による助成件数」を指標としているが、実質、企業誘致や産業集積はどの程度図られたのか。助成件数では目標とすべきまちの姿にどこまで寄与しているのか分からず評価できない。
- ・農業振興計画のような計画を定めるべき(課題を明確にしたビジョンが無い)。

質問

- ・鎌倉市企業活動拠点整備事業により設置されたオフィスには鎌倉市民が雇用されているのか？